

ご注文は J R C へ FAX03-3294-2177

シルバー文庫の大活字本

12月15日発売!

小泉 八雲 怪談

文庫判 230 頁 定価 1,600 円 + 税
ISBN978-4-9912544-2-0 C0193

「貉」「耳なし芳一の話」「雪女」「ろくろ首」…全11編!

17 耳なし芳一の話

を讀者諸君に語った事があるが、それはその背
が人間の顔になっており、平家の武者の魂である
と云われているのである。しかしその海岸一帯に
は、たくさん不思議な事が見聞きされる。闇夜に
は幾千となき幽霊火が、水うち際にふわふわさ
すらつか、もしくは波の上にちらちら飛ぶ――すな
わち漁夫の呼んで鬼火すなわち魔の火と称する青
白い光りである。そして風の立つ時には大きな叫
び声が、戦の叫喚のように、海から聞えて来る。

16

七百年以上も昔の事、下ノ関海峡の壇ノ浦で、
平家すなわち平族と、源氏すなわち源族との間
の、永い争いの最後の戦闘が戦われた。この壇ノ
浦で平家は、その一族の婦人子供ならびにその幼
帝――今日安徳天皇として記憶されている――と
共に、まったく滅亡した。そうしてその海と浜辺
とは七百年間その怨霊に崇られていた……他の箇
所で私はそこに居る平家蟹という不思議な蟹の事

小泉八雲 (1850 ~ 1904)
小説家、日本研究家、英文
学者。出生名はパトリック・
ラフカディオ・ハーンで、
アイルランド人の父と、ギ
リシャ人の母の間に生まれ
た。欧米を流転の後、明治
期に来日。小泉節子と結婚、
日本に帰化し「小泉八雲」
を名乗る。怪異譚に取材し
た作品を多く著し、ことに
収録作の『耳なし芳一の話』
『茶碗の中』などを含む『骨
董』『怪談』の評価は高い。

* 読書家インスタグラマーも大絶賛! *

「装丁がシンプルでかっこいい」「大活字本でこのサイズ、軽さ、装丁はすごい」
「久しぶりに読みましたが字が大きいこともあり読みやすく楽しく読めました」

* 高齢の方へのプレゼントにも好評! *

「私の祖母もこれなら気軽に読めると大満足でした」
「高齢の方だけでなく小学生にも年代幅広くオススメ」

本文、16ポイントゴシック体使用

文庫サイズの
大活字本続々展開



「ぺんで舎」で検索

FAX 03-3294-2177 J R C 宛

貴店番線印	御注文数	書名
ご担当者様		シルバー文庫 こ1-1 大活字本 怪談 小泉八雲 著 2024年12月15日刊行 定価 本体1,600円+税 ISBN978-4-9912544-2-0 C0193

すべての取次からご注文可能です (JRC 経由)。 ※返品は長期に承ります (返品条件付き注文扱い)